

iPaaSシステム開発実績についてのご紹介

株式会社エイエイエスティ東京

はじめに

弊社ではiPaaSの仕組みを活用して、RPA（ロボティックプロセスオートメーション）製品と、様々なSaaS製品を連携するシステム開発を手掛けてまいりました。本稿ではそのiPaaSシステムの開発実績についてご紹介いたします。SaaS製品の普及に伴いSaaS製品間の連携のニーズは今後益々高まるものと推察いたします。弊社が保有するこの開発実績はその連携ニーズへの応用を可能にする技術となります。

目次

1. 「iPaaS」とは
2. iPaaSの体系・位置づけ
3. iPaaSシステム開発実績（RPA連携）

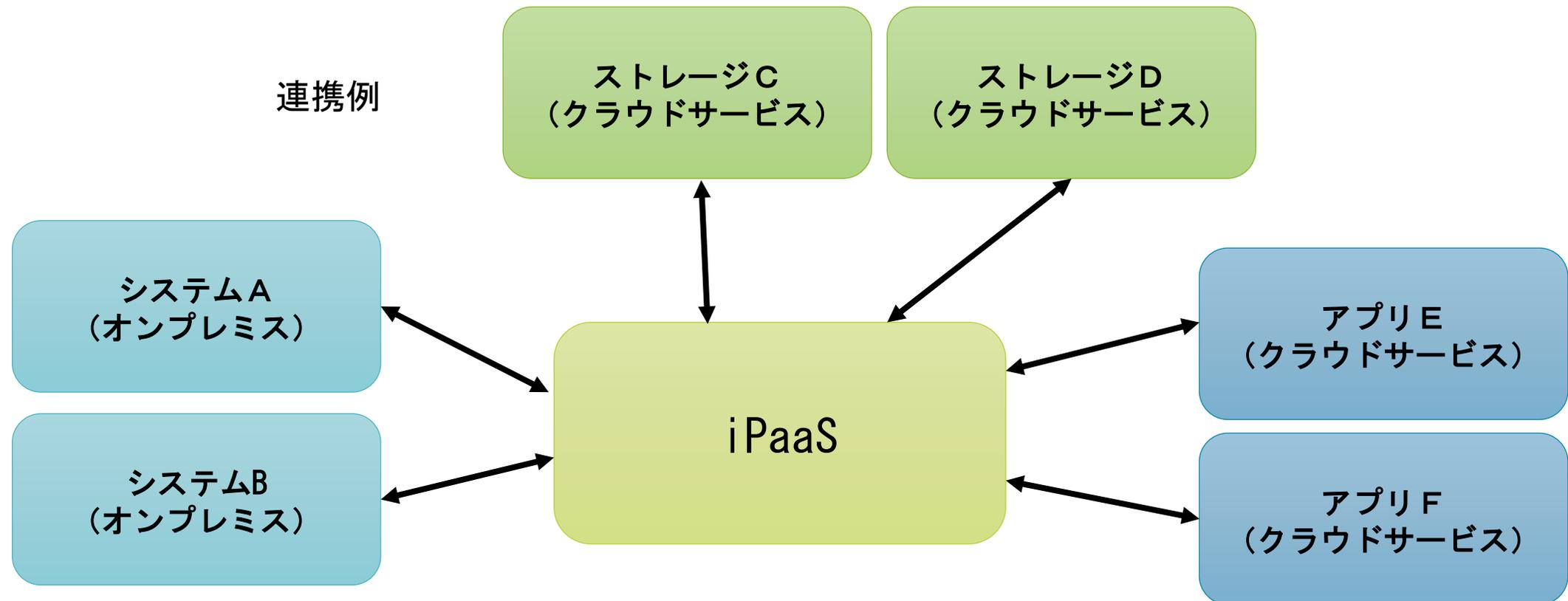
1. 「iPaaS」とは

iPaaS (Integration Platform as a Service)

一言でいえば

「システム間のデータの橋渡し」を行うサービス
と言えます。

利用している様々なシステム間でデータを連携させるハブ的なサービスになります。



2. iPaaSの体系・位置づけ

- クラウドサービス普及に伴い、データ連携の必要性からiPaaSの需要は拡大傾向にあります。（国内はまだまだこれから）
- 既製のiPaaS製品においては、REST API（詳細は次次頁参照）が使用できれば比較的容易に連携可能となります。

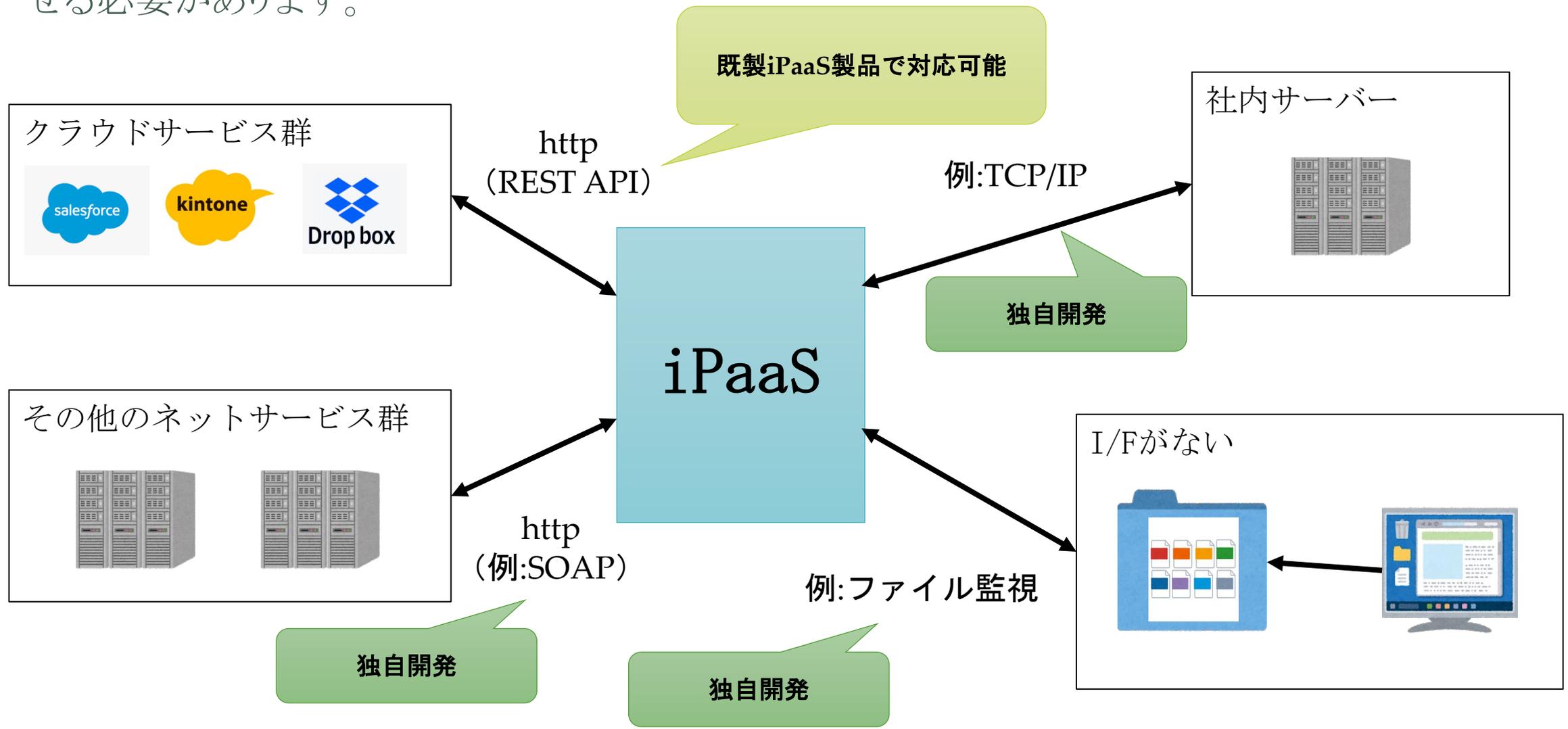
⇒コストを掛けたくなければこれを選択

- REST API以外のI/Fや独自の連携が必要な場合は、iPaaS自身をカスタマイズする必要があります。（専用の連携部品を開発する）

⇒コストが掛かる

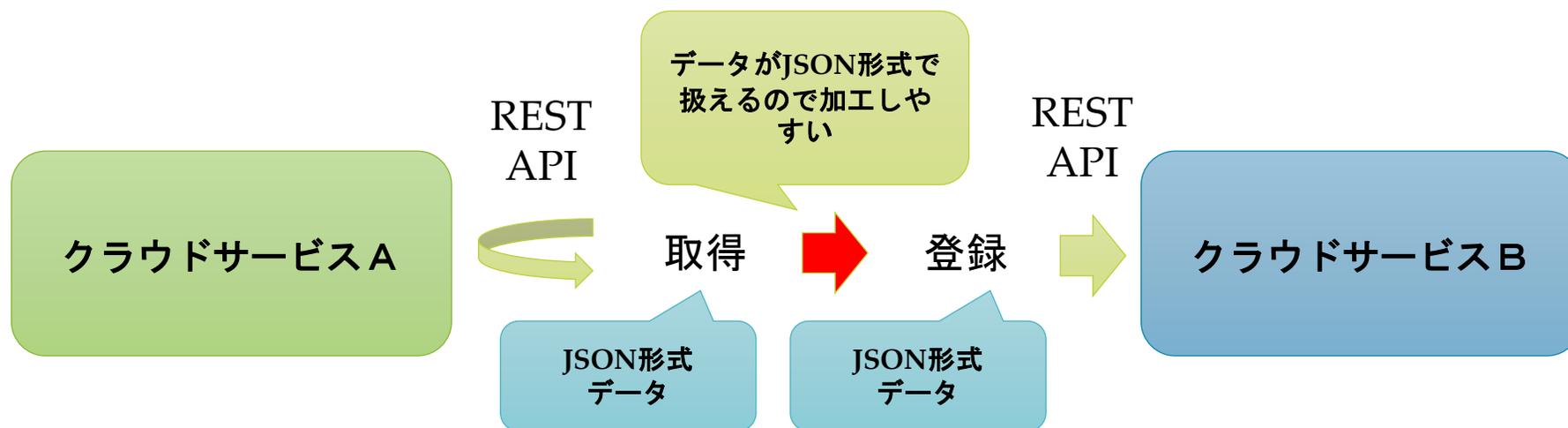
⇒既製iPaaS製品はカスタマイズは困難

以上のようにインターフェース要件によりiPaaS製品と独自開発(カスタマイズ含む)を組み合わせる必要があります。



【参考】REST API (RESTful API) とは

- GET / POST / PUT / DELETE等のHTTP標準のメソッドを使う
- 各メソッドに載せるデータは、JSON (JavaScript Object Notation) 形式が一般的
- 画面操作を行わずに直接データの入出力が可能
- データフォーマット自体が統一されている訳ではない

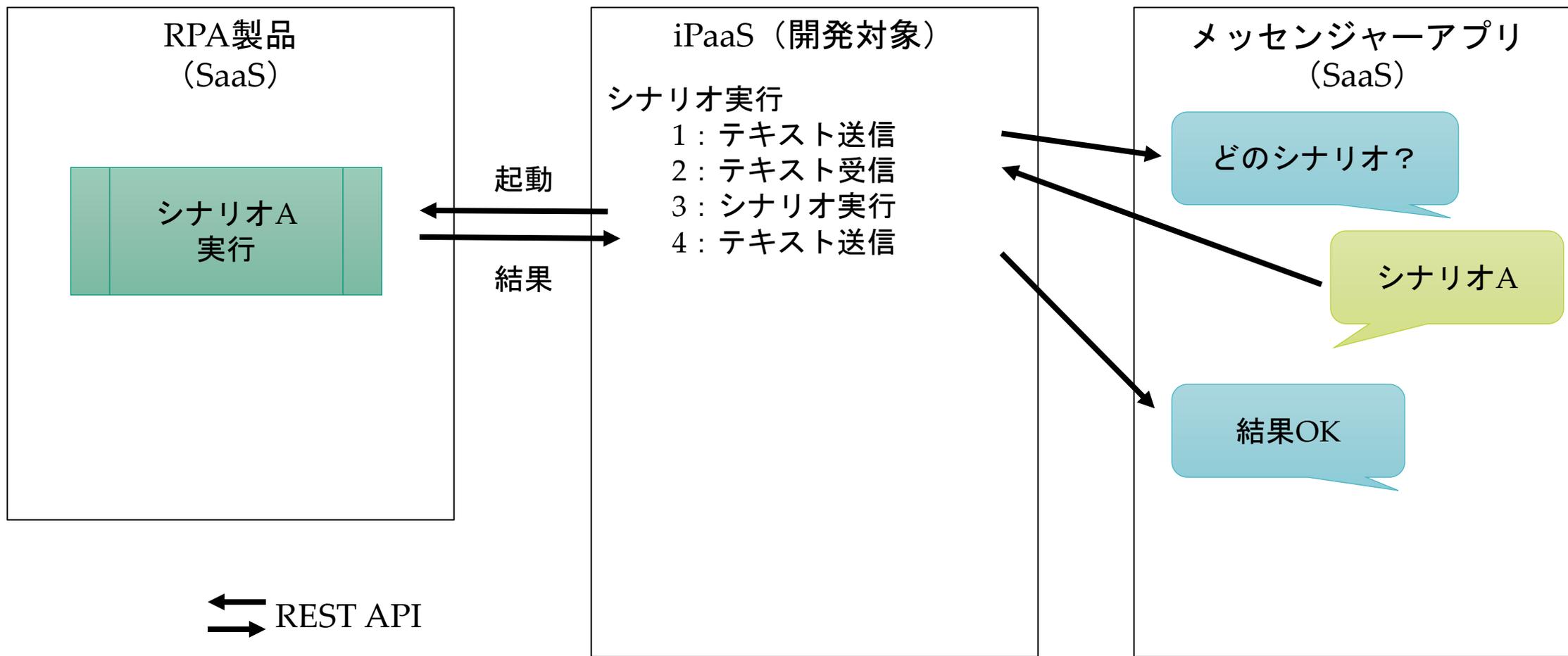


3. iPaaSシステム開発実績（RPA連携）

開発のポイントは以下となります。

- 異なるSaaS製品間でのデータ連携（SaaS製品のREST APIを使用）
- データ連携だけでなく、メッセージングアプリを利用して、他のSaaS製品のサービスを起動し、結果を取得など、顧客のニーズに特化した連携を提供するための独自開発
- 自製品内で連携をシナリオ化し、自動実行
- 開発：node.js（JavaScript）

【参考】 iPaaSシステム実行イメージ



おわりに

RPA製品提供ベンダー様においては、今回のRPA製品との連携に留まらず、iPaaSによって異なるSaaS製品を結び付ける有効性が評価され、新たなSaaS製品との連携部品を追加開発するなどさらなるシステム拡張が行われており、エイエイエスティ東京は継続してご支援させて頂いております。

「Salesforce」およびSalesforceロゴは、Salesforce.com Inc.の商標または登録商標です。

「kintone」およびkintoneロゴはサイボウズ株式会社の商標または登録商標です。

「Dropbox」およびDropboxロゴはDropbox, Inc.の商標または登録商標です。

「JavaScript」は、Oracle Corporationまたはその子会社、関連会社の商標または登録商標です。

「node.js」は、Joyent, Inc.の商標または登録商標です。